

定期予防接種

国や自治体が「受けるように努めなければならない」と強くすすめている予防接種です。規定の年齢での接種であれば費用は原則無料です。（指定医療機関外で接種する場合は、一部自己負担になる場合もあります。）

□…無料で接種を受けられる年齢 ■…接種可能年齢のうち、受けるのが勧められている期間 ↓…好ましい接種時期

ワクチン	種類	出生時	3か月	6か月	9か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	標準的な接種スケジュール
B型肝炎	不活化		①②	③																		標準的な接種は、生後2～9か月までの間となります。27日以上の間隔で2回接種し、初回接種から139日以上間をおいて3回目を接種します。
タテ	ロタテック		①②③																			生後6週から32週までの間に27日以上の間隔で3回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。
	ロタリックス		①②																			生後6週から24週までの間に27日以上の間隔で2回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。
ソフルガ 菌b型 (Hib)	不活化		①②③			④																接種開始時期により接種回数異なります。詳しくは次ページの表をご覧ください。標準的な接種開始年齢は、生後2～7か月未満です。
小児用肺炎球菌	不活化		①②③			④																接種開始時期により接種回数異なります。詳しくは次ページの表をご覧ください。標準的な接種開始年齢は、生後2～7か月未満です。
四種混合 (百日咳、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ)	不活化		①②③			④																初回接種は20日以上（標準的には20日から56日まで）の間隔をおいて3回行い、追加接種は初回接種終了後6か月以上（標準的には12か月～18か月まで）の間隔をおいて1回行います。
BCG			①																			生後5～8か月に達するまでの間に1回接種します。
麻しん風しん混合 (MR)						①																1期 1歳の間に1回接種します。
													②									2期 5～7歳未満の子で小学校就学前（保育園・幼稚園等の年長児期）の1年間（4/1～3/31）に1回接種します。
水痘（水ぼうそう）						①		②														生後12～15か月の間に1回接種した後、1回目の接種後6～12か月までの間に1回接種します。ただし、当該方法をとることができない場合は、2回目は3か月あていければ接種可能です。
日本脳炎（※注）	不活化											①②③										1期 3～4歳の間に6～28日の間隔をあけて初回接種（2回）を行い、初回接種終了後、約1年後に追加接種（1回）を行います。
													④									2期 9～10歳未満の間に1回接種します。
二種混合 (ジフテリア・破傷風)	不活化																					11～12歳未満の間に1回接種します。
子宮頸がん予防 (HPV)	2価 サバ リックス	不活化																				ワクチンの種類によって、接種間隔異なります。 <現在積極的勧奨は中止していますが、希望される方は接種可能です> 対象：小学6年生～高校1年生に相当する女子 （中学1年生の間が望ましい接種期間です）
	4価 ガーダシル	不活化																				

※注：平成17年～平成21年の積極的な勧奨の差し控えにより、接種を受けられなかった方（平成19年4月1日以前に生まれた20歳未満の方および平成19年4月2日～平成21年10月1日に生まれた子）への接種機会が設けられています。接種間隔等、詳しくは担当課までお問い合わせください。

任意予防接種

個人で接種するかを判断し、費用も自己負担となる予防接種です。健康保険は通常適用されません。

ワクチン	種類	接種スケジュール
おたふくかぜ		対象年齢は1歳以上で接種することができます。1回接種をします。日本小児科学会では2回の接種が推奨されています。
季節性インフルエンザ	不活化	生後6か月以上で接種することができます。13歳未満は2～4週間間隔をあげ、2回接種します。



※季節性インフルエンザの助成については、担当課にお問い合わせください。

ワクチンの種類

ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌をもとに作られています。成分の違いから、大きく「生」と「不活化」に分けられます。

生ワクチン

症状が出ない程度に病原性を弱められた（弱毒化）、生きた病原体でできています。


注射生ワクチン  と、経口生ワクチン  があります。

不活化ワクチン

死んだ病原体や病原体の一部を集めたもの（病原体ではなく、免疫をつけるのに必要な成分のみ）でできています。

不活化

異なるワクチンの接種間隔について（R2.10～規定が変更されました）

	接種	次の接種
注射生ワクチン (BCG、MR、水痘、おたふくかぜ等)	★ 『注射生ワクチン』は27日は接種不可 	★ 注射生ワクチン
経口生ワクチン	★ 『経口生ワクチン・不活化ワクチン』は接種可（接種間隔に制限はありません）	
不活化ワクチン	★ 異なるワクチンは接種可（接種間隔に制限はありません）	★ 異なるワクチンは接種可（接種間隔に制限はありません）

同じ種類のワクチンの接種間隔について

同じ種類のワクチン接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた間隔を守る必要があります。上記記載の「標準的な接種スケジュール」を参考にしてください。



ヒブと小児用肺炎球菌の接種スケジュールについて

○ヒブワクチン○

接種開始年齢		初回1回目	初回2回目	初回3回目	追加
標準的な接種開始年齢	生後2か月～7か月未満	初回	27日以上の間隔で接種 (標準的な接種間隔：27～56日)	27日以上の間隔で接種 (標準的な接種間隔：27～56日)	7か月以上の間隔で接種 (標準的な接種間隔：7～13か月後)
	注) 2回目及び3回目は生後12か月を超えた場合は行わない。追加接種は実施可能。最後の接種から27日以上あけて1回接種する。				
標準的な接種開始年齢で接種できなかった子の場合	生後7か月～12か月未満	初回	27日以上の間隔で接種 (標準的な接種間隔：27～56日)		7か月以上の間隔で接種 (標準的な接種間隔：7～13か月後)
	注) 2回目は生後12か月を超えた場合は行わない。追加接種は実施可能。最後の接種から27日以上あけて1回接種する。				
	1歳～5歳未満	1回のみ接種			

○小児用肺炎球菌ワクチン○

接種開始年齢		初回1回目	初回2回目	初回3回目	追加
標準的な接種開始年齢	生後2か月～7か月未満	初回	27日以上の間隔で接種	27日以上の間隔で接種	60日以上の間隔で接種 (標準的な接種時期：生後12～15か月)
	注) ①2回目及び3回目は生後24か月を超えた場合は行わない。②2回目は生後12か月までに行ない、それを超えた場合は3回目は行わない。①②とも追加接種は実施可能。				
標準的な接種開始年齢で接種できなかった子の場合	生後7か月～12か月未満	初回	27日以上の間隔で接種		60日以上の間隔で接種
	注) 2回目は生後24か月を超えた場合は行わない。追加接種は実施可能。				
	1歳～2歳未満	初回	60日以上の間隔で接種		
	2歳～5歳未満	1回のみ接種			

